

**イオン (8267)**

**参考銘柄**

【ホームページアドレス】 <http://www.aeon.info/>

**幾多のM&Aや新しい試みで成長を遂げる**

総合スーパー最大手。1758年、岡田惣左衛門氏が太物・小間物商を四日市で創業。屋号は篠原屋。その後、屋号は岡田屋に改称。1926年、岡田屋、六代目惣右衛門が株式会社に改組、(株)岡田屋呉服店を設立(1959年に岡田屋に社名変更)。その後、幾多のM&Aやメーカーとの直接取引、PB、スーパーセンター、大型ショッピングセンターなど多くの新しい取り組みを積極的に進めて成長。現在は、総合スーパー、スーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストア、専門店、ディベロッパー、金融サービス、サービス等の多角的事業を展開する。08.2期よりダイエーとマルエツを持分法適用会社とした。

**08.2期業績は再度下方修正で営業利益は20%減益になる見通し**

08.2期・第3四半期(3~11月期)の連結業績は、営業収益が3兆7,777億円、前年同期比7%増、営業利益が807億円、同24%減。会社側は第3四半期発表時点に続き、2月28日に業績の再下方修正を発表した。営業収益を5兆1,350億円超→5兆1,200億円(前期比6%増)、営業利益を1,670億円~1,720億円→1,520億円(同20%減)、当期純利益を600億円~630億円→440億円(同24%減)とした。これはダイエーの“のれん相当額”に係る減損処理135億円、イオンクレジットの不振と先行投資、米タルボットの既存店売上高が前年比5.5%減となる見通し、イオン単体の既存店売上高が通期で0.4%減となり荒利率が衣料の在庫処分などで0.5ポイント悪化、ダイエー株式299億円の有価証券評価損計上などを織り込んだもの。

**新中計による収益性、資本効率の向上に期待**

09.2期はディベロッパー事業の好調持続、GMSの収益改善で増益が見込まれるが、投資負担も重く高増益率は見込みにくい。本格回復は新中計の施策が寄与する10.2期以降となろう。また09.2期は持株会社への移行が予定される。グループ全体の戦略立案をつかさどる本社機能の強化や、事業会社の事業運営への専念、グループ会社の再編・統合による収益性、資本効率の向上に期待したい。4月初旬に詳細発表予定の中計の基本方針が明らかにされたが、中国、アジアに軸足を移し、国内事業は多角化・規模拡大から質重視の選択と集中が図られる見込み。一段の経営の進化に注目したい。(奥村)

**◇09.2期は増益転換、本格回復は10.2期以降か**

[業績推移] (連結)

単位：億円、円、( )は伸び率%

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
07.2	48,248( 9)	1,897( 14)	1,883( 7)	577( 99)	77.3	15.00
08.2推	51,200( 6)	1,520(▲20)	1,600(▲15)	440(▲24)	55.0	17.00
09.2予	51,500( 1)	1,650( 9)	1,700( 6)	700( 59)	87.4	17.00

**◇PBRも1倍前後と割安感強まる**



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2008/3/25)	1,177 円
昨年来高値 (高値日)	2,745 円 (07/1/ 9)
同 安値 (安値日)	995 円 (08/3/17)
予想P E R (09.2予)	13.5 倍
1株株主資本	1,141 円
P B R	1.03 倍
予想配当利回り (年17円で)	1.44 %
R O E	7.3 %
発行済み株式数	80,406 万株